とある少女の話。

零詩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある少女の話。

【Ｎコード】
Ｎ０１２２Ｈ

【作者名】
零詩

【あらすじ】
とある雨の降っている街の、とある光と、とある少女のお話。

とある街。

とある雨の降っている町。

その街の公園に少女がいた。

その街の公園に傘も持たない少女がひとり、ただそこに立っていた。

少女は、白色のワンピースを着ていて、髪の毛は銀色。そして白の靴を履いていた。

その少女は何をするでもなくただただその公園に一つしかない遊具、ブランコを眺めていた。自分がどんなに雨でずぶぬれになってもその場から動きだそうとはしない。

時刻は夕刻。もうすぐ真っ暗な夜が近づいてくる時間。街灯が明りをともしはじめ、暖かい

色の明かりが街灯の半径二メートルくらいを照らしていた。

少女は小さな声で、呟き始めた。何かに向かって話し始めた。

話すことをすぐにやめた。

少女は動かない。

ブランコも動かない。

少女は動かない。
ブランコも動かない。
少女は動かない。
ブランコが動く。
少女も動いた。

暗い中のブランコに一つの小さな小さな光がブランコを動かす。
小さな青白い光がブランコを動かす。

その光に吸い込まれるように、少女は手を伸ばす。

その光に吸い込まれるように、少女は手を伸ばした。

その光に、少女の手の先が届いた。ちょん、とかすかに光に触れた。

光は大きくなり、大きくなり、周りの木や、街灯や、ブランコや、その少女をあっという間に飲み込んだ。

小さかった光は、すべてを飲み込み、そして、今まで何もなかったかのように消えた。

時刻は八時を回って、あたりは真っ暗。光に飲み込まれたところも元通り。会社から帰ってきた、サラリーマンたちが急ぎ足で、公園の前をかけていく。

光に飲み込まれたところも元通り。ただ、少女はいなかった。

夜八時を回った、雨の降る街の空に、雲の隙間から、僅かな銀色の光達が顔をのぞかせていた。

これはとある少女の話。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0122h/

とある少女の話。

2010年12月25日18時39分発行